

## 講師のプロフィール

**石川 幹子**  
 東京大学大学院 工学系研究科 教授  
 農学博士、技術士（建設部門、都市および地方計画）  
 日本学術会議会員、川崎市環境審議会委員  
 全国約200の市町村の水と緑の計画・設計に携わる。

**伊藤 達雄**  
 名古屋産業大学 名誉学長・特任教授 理学博士  
 愛知県地球温暖化防止活動推進センター長、(社)環境創造研究センター理事長などを兼務  
 専門分野：都市地理学、地域経済学、環境政策

**大西 隆**  
 東京大学大学院 工学系研究科 教授  
 専門分野：国土計画、地域開発、都市開発  
 環境共生計画、テレワーク等に造詣が深い。「逆都市化」の概念を提唱

**大和田道雄**  
 愛知教育大学 特別教授 理学博士  
 専門分野：自然地理学/気候・気象学/大気環境学

**川口 晶**  
 (社)日本経済団体連合会 産業政策本部 副本部長  
 担当分野：規制改革、道州制、産業競争力、地域活性化等

**高橋 和憲**  
 日本商工会議所 理事・企画調査部長  
 中心市街地活性化等のまちづくり、観光振興等の地域活性化問題、また、道州制問題を担当。

**武内 和彦**  
 東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授  
 国連大学 副学長 農学博士  
 専門分野：緑地環境学、地域生態学、地球持続学（サステイナビリティ学）

**竹村公太郎**  
 財団法人 リバーフロント整備センター理事長  
 日本水フォーラム代表理事・事務局長 工学博士  
 専門分野：土木工学 特に河川

**辻本 哲郎**  
 名古屋大学大学院 工学研究科 教授 工学博士  
 専門分野：河川工学・土砂水理学・河川水理学・河川生態学・防災水工学・河川計画学

**筒井 信之**  
 株式会社 創建 代表取締役社長  
 モットーは「環境」と「景観」と「情報の報」と「健康」が「空気」と同様に大切です。これが整っていれば人は幸せな気分で生きられる。

**信時 正人**  
 横浜市 地球温暖化対策事業本部長  
 三菱商事株式会社勤務を経て、(財)2005年日本国際博覧会協会、東京大学大学院新領域創成科学研究科特任教授、環境省カーボンオフセットのあり方検討会委員などを歴任。

**林 良嗣**  
 シンポジウム実行委員長  
 名古屋大学大学院 環境学研究科 教授  
 専門分野：持続的国土都市空間・交通計画  
 「都市のクオリティストック」「スマートシュリンク」という概念を提唱

**福井 弘道**  
 慶應義塾大学総合政策学部 教授 理学博士  
 専門分野：地域・国土・環境計画、地球環境学  
 空間情報科学の視点から、「デジタルアース」の構築を目指す。

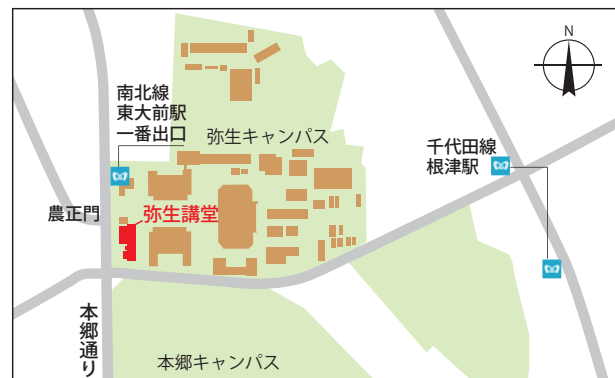
(50音順)

### 東京大学 弥生講堂 一条ホール

#### 【交通案内】

地下鉄 東京メトロ 東大前駅 一番出口（南北線）徒歩1分  
 東京メトロ 根津駅（千代田線）徒歩8分

都バス 御茶ノ水駅（JR中央線、総武線）より  
 茶51駒込駅南口又は東43荒川土手操車所前行  
 東大（農学部前バス停）下車徒歩1分



パートナーシップ事業

創建 CSR セミナー



COP10 パートナーシップ事業

コラージュ&フォーラム

第2回

流域環境圏を基にこの国の形を創る

～地域主権のあり方を流域から考える～

日時：2010年2月14日(日) 13:00～17:15 (受付 12:00～)

場所：東京大学弥生講堂 一条ホール

参加  
無料



主催：「流域環境圏を基にこの国の形を創る」シンポジウム実行委員会  
 後援：社団法人 日本都市計画学会、社団法人 日本不動産学会、社団法人 土木学会、社団法人 日本造園学会、  
 社団法人 日本プロジェクト産業協議会、日本地域学会、日本計画行政学会、日本環境共生学会、  
 応用生態工学会、特定非営利活動法人 日本都市計画家協会  
 協賛：株式会社創建  
 連携協力：生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会

# 趣旨文

わが国では、少子高齢化が進行して社会が脆弱になりつつあるところへ、気候変化に伴う気象災害が襲いかかる図式が顕著になってきました。一方で、人間の生活は、その周辺環境としての生物圏の多様性から多大な恩恵を被っていることが、ようやく認識されるようになりつつあります。

半世紀前の日本は貧しく、20世紀後半の社会の目標はもっぱら経済的繁栄でありました。しかし、50年の高度成長を達成して差し掛かった21世紀においては、社会の目標は生活の質の豊かさに移行しています。その社会が必要とするインフラストラクチャーは、道路や鉄道などに加えて、水と緑など自然インフラが重要視されるようになりました。自然インフラは、局所的に単独に存在し維持できるものではありません。大気、土壌、水に依拠して生存する多様な生物相、それらが人間活動を育み維持しているという、自然の公益機能を理解することが重要であります。

折しも今年秋には生物多様性条約締約国会議COP10が名古屋で開催されます。また国土形成計画とそれに連動する広域地方計画も策定されました。それらは、21世紀初頭にあつて、経済という人間社会の部分システムだけを見るのではなく、それを支配する水循環、物質循環そして生物多様性という、より大きなスケールの自立系を基軸として、国土のマネジメントとガバナンスの仕組みを再設計する任務を示しています。今こそ経済インフラと自然インフラをバランスよく整備し維持する仕掛けを構築する千載一遇のチャンスであり、これに失敗すれば、人間生活は取り返しのつかない大きなダメージを被るであろうことは想像に難くありません。

そのための一つの試みとして、「自治体の境界を流域圏で構成し、流域環境圏を基にこの国の形を創る」ことが大きな意味を持つことになりはしないか！？改革の方向性はここにありとの期待があります。このような国の形が実現すれば、自然環境を大切にする自治体のガバナンスが成立し、住民が内発的に自ら生活の質を向上させ、なおかつ国家のかたちを再構築することにより、この国が再び自然に抱かれて人間生活を営むことができるように舵を切るとは、新たな好ましい内需を創出することにも繋がり、自立経済の発展にも寄与するものと思われます。

日本学術会議においても流域共生圏についての検討が続けられているなど、現在までに、多方面からいくつもの重要な検討がなされてきました。本シンポジウムは、それらの中心となった研究者をも交えて、学術的な検討を一步出た討議をし、提言としてまとめ、それを出版することを目的とするものです。

今回のシンポジウムでは、昨年秋名古屋で開催された第1回のシンポジウムを受けてそれを発展させた形で、地域主権のあり方を流域環境圏から考えてみたい。また、今回は、コラージュ&フォーラム※という新しいスタイルで進めて行きたいと考えております。

シンポジウム実行委員長  
林 良嗣

※コラージュ&フォーラム(COLLAGE & FORUM)：コラージュとは、多くの異質の素材で構成された芸術作品のことで、フォーラムにおいてその出来栄が際立ったものになることを期待するものです。

# プログラム

総合司会 亀山典子

13:00 開会

13:00～13:05 開会挨拶 林 良嗣 シンポジウム実行委員長 名古屋大学大学院 環境学研究所 教授

13:05～13:35 基調講演 1

「国土計画と流域圏」(仮題)  
大西 隆 東京大学大学院 工学系研究科 教授

13:35～14:05 基調講演 2

「持続性に向けた流域圏の挑戦  
—それを支援する学と技術」  
辻本 哲郎 名古屋大学大学院 工学研究科 教授

14:05～14:30 基調提言

<sup>ぐんぼうせい</sup>  
郡邦制の提案  
「流域社会(郡)を基に州政府(邦)を創る」  
筒井 信之 株式会社 創建 代表取締役社長 日本地域学会 監事

14:30～15:30 核心コメント

「流域環境圏を基にこの国の形を創る」  
大和田道雄 愛知教育大学教育学部 特別教授  
高橋 和憲 日本商工会議所 理事 企画調査部長  
武内 和彦 東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授 国連大学 副学長  
信時 正人 横浜市 地球温暖化対策事業本部長  
福井 弘道 慶応義塾大学総合政策学部 教授 (50音順)

15:30～15:45 休憩

15:45～17:00 パネルディスカッション

「地域主権のあり方を流域から考える」  
石川 幹子 東京大学大学院 工学系研究科 教授  
大西 隆 東京大学大学院 工学系研究科 教授  
川口 晶 (社)日本経済団体連合会 産業政策本部 副本部長  
竹村公太郎 財団法人 リバーフロント整備センター理事長  
辻本 哲郎 名古屋大学大学院 工学研究科 教授 (50音順)  
筒井 信之 株式会社 創建 代表取締役社長 日本地域学会 監事  
林 良嗣 シンポジウム実行委員長 名古屋大学大学院 環境学研究所 教授

17:00～17:10 総括

伊藤 達雄 名古屋産業大学 名誉学長・特任教授

17:10～17:15 ご案内

「生物多様性第10回締約国会議(COP10)について」  
林 清比古 愛知県顧問 (環境担当)

17:15 閉会

17：30より19：00まで弥生講堂エントランスホールにて意見交換会(会費制：会費2000円)を開催します。